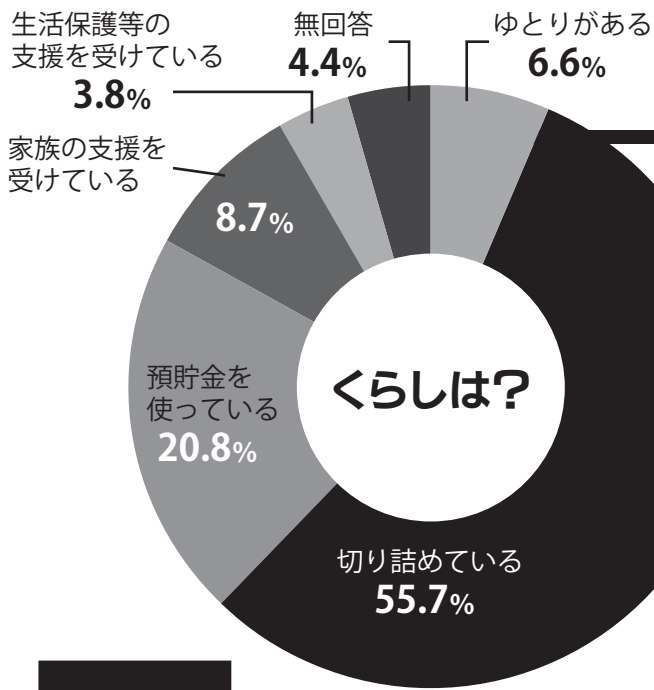


日本共産党の
アンケートより

「生活が苦しい」が9割も



女性の年金でのひとり暮らしは、不安の塊。

市民の雇用、生活に重点をおいた出費を。

食べることで我慢するのは生活が成り立ちません。

娘が母子家庭で親の収入も少なく、援助しています。

国保料、介護保険料の負担が重すぎる。

みなさんの声を
市長に
ぶつけます!

市政に望むこと 複数回答

①国保料・介護保険料の引き下げ	65.5%
②高齢者福祉の充実	48.0%
③保健予防・救急医療の充実	33.9%
④巨大事業(文化ホール等)の見直し	28.1%
⑤生活道路の舗装や改良	24.0%
⑥排水・浸水対策、防災のまちづくり	23.4%
⑦街灯・防犯灯の設置	22.8%
⑧歩道や交差点の改良と交通安全対策	22.2%
⑨市内産業の育成と雇用の場の確保	21.6%
⑩保育・子育て支援の充実	19.9%

日本共産党の「くらしのアンケート」へのご協力ありがとうございました。お寄せいただいたご要望をしっかりと受け止め、市政に生かすため全力で頑張ります。

三好平

市政対策委員長

みよし ひとし

日本共産党



税金の使い方を切り替えて いのち、くらし 一番の市政へ 頑張ります!

日本共産党
四国中央市議団



三谷つきむ



青木永六



鈴木りょうすけ

私たちの実現めざしてがんばります

- 防災無線の改善・確保や避難場所の見直し、防波堤・防潮堤の検証をすすめます
- 伊方原発からの撤退と脱原発都市宣言
- 自然再生可能エネルギーの開発に、市が独自の計画を策定し、推進するよう求めます



災害対策・エネルギー

- 住宅リフォーム助成制度の実現で、中小業者の仕事と雇用を拡大
- 非正規労働の解消と正規雇用化の拡大。正社員が当たり前の世の中を
- 農産物の鳥獣被害対策を強化
- 商店街の活性化と大型店の出店規制



地域経済・雇用

- 中学校卒業まで医療費の完全無料化
- 学校の耐震化を促進
- 保育所の民営化反対。保育料の引き下げ
- 人権対策協議会による学校教育への介入を許しません

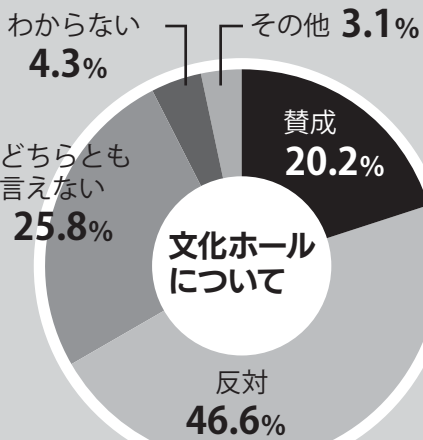


子育て・教育

- 国保料を1人1万円引き下げ
- 介護保険料・利用料の引き下げ
- デマンドタクシーの改善
- 三島医療センターの産婦人科、小児科、外科、麻酔科を体制強化し、救急救命医療の実現



福祉・医療



メスを入れ、予算を生みだします

市民文化ホールは抜本的な見直しを

建設費73億4千万円

年間維持費1億5千万円

収容人員が1000～1100席の多度津町民会館の建設費22～23億円とくらべると、あまりにも巨額な建設費です。身の丈に合わない建設費とばく大な年間維持費が、市民生活を圧迫するのは目に見えています。そもそも市民が望まない計画を市長が強引に進めるなど、もってのほかです。

同和関連予算の廃止、滞納金解消こそ真の差別解消

国はすでに同和対策特別措置法を終了しています。市もこれにない、真の差別解消のため、人権対策協議会や人権教育協議会への補助金を廃止すべきです。また同和対策特別措置法のもとで貸し付けられた、住宅新築資金滞納金(約3億円)をはじめ住宅使用料や簡易水道などの滞納金回収を進めます。

何にもまして大切なのは命と暮らし それを守るのが行政と政治の使命

35年間、貫いた信条を大切にして頑張ります！

日本共産党

三好 平

みよし ひとし

プロフィール●1952年、川之江町生まれ。川之江小、川之江北中、兵庫県立長田高校、関西大学工学部建築学科卒。関西大学在学中に日本共産党に入党。76年、旧川之江市役所に入職。旧川之江市職員労働組合執行委員長、旧川之江市・四国中央市自治体問題研究所会長など歴任。2011年、四国中央市役所退職。一級建築士。現在、党市政対策委員長、党東予地区委員。趣味は落語、散歩。四国中央市上分町1311-16在住。



● 住民の立場に立って働くということ

「住民の立場に立つことが、自治体労働者の真の役割」——。23歳で川之江市役所に入職した三好さん。労働組合運動に参加する中で、35年間、深く胸に刻み込んできた思いです。「市民のためにならない施策は看過できない」と、市当局や県と対峙することもしばしば。県立三島病院を移譲から守るための運動にも参加しました。

地域経済の活性化に効果のある住宅リフォーム助成制度の実現を求めて、在職中から署名集めに奔走。「職員がそんなことをして大丈夫か」と言われても平気だったのは、強い信念があったからです。

● 憲法を活かした市政を

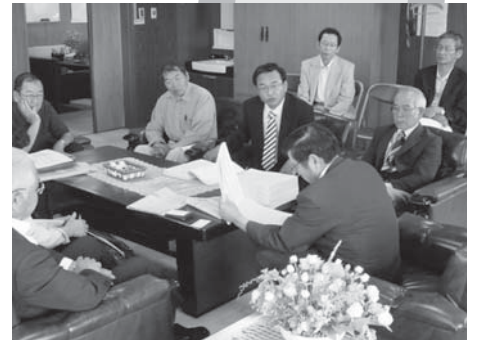
「川之江9条の会」で憲法を守る運動に参加している三好平さん。日本共産党の災害ボランティアとして南相馬市へ入った経験や、自治体労働者としての経験から、憲法を市政に生かすことがいまほど必要な時はないと痛感しています。

「憲法25条には、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を明記しています。幸福を追求する権利も13条にあります。こんな素晴らしい条文が生きる市政を市民のみなさんと一緒に作りたい」

● 市民とガッチリスクラム組んで

県内一高い国保料をはじめ、財政難を理由に、高齢者への給付金削減や小学校入学時の給付物廃止、保育所の民営化。その一方で市民文化ホール計画を市民合意もないまま突き進む井原市政。アンケートに寄せられた怒りの声を胸に週3回朝と夕、街頭に立ち、市政改革を訴えています。

フォトレポート



市と市議会に住宅リフォーム助成制度の創設を求めました（中央）



ボランティアとして南相馬市へ（中央）



原発の是非を問うシール投票を市民に呼び掛けました



川之江9条の会で

三好平さんに期待します

川滝町 加地 健さん

三 好君とは30数年来のつきあいですが、彼の人情深く、義理堅い生き方が魅力です。長年の行政経験と持ち前の情熱・信念で市政改革に挑戦されることを心から期待します。

生協宇摩診療所所長 小原 朝彦さん

中 核病院の建設の「約束」を守るよう、住民「監視」の代表として市政での活躍を願います。不況の中、若者の雇用のための、地域活性化のための「働き手」として、期待します。

土居町 村上 茂さん

憲 法9条をまもることは、粘り強く信念のいる事業です。改憲を狙う反動の動きに屈することなく、確信をもって進む彼の姿に学ぶこと大。市政に憲法の視点を据えよう。

三島宮川 菅野 節子さん

年 金・消費税。日々の暮らしは不安でいっぱい。豪華で大きな市民文化ホールなどに100億余りをつぎ込み建設するとは（怒）。
平さん、いのち・くらしを一番に考えた税金の使い方に切り替えて！！

日本共産党演説会

● 3月24日(土) 午後7時～ ● 川之江文化センター

弁士



党四国ブロック事務局長
笹岡 まさる



市政対策委員長
三好 平